

【生薬名】白扁豆 *DOLICHORIS SEMEN*

【起源植物】フジマメ *Dolichos lablab*



【科名】マメ科 *Leguminosae*

【別名】扁豆、菹豆、沿籬豆、峨眉豆、インゲン豆(隠元禅師が1654年中国より伝えたのが名の由来)

【薬用部分】成熟種子

【主成分】蛋白質、脂肪、炭水化物、チロシナーゼ、VA様物質

【薬性】気味甘微温は、帰経は脾胃に属す

【効能】●消暑化湿・和中建脾

●嘔吐、腹痛、下痢

●白扁豆は脾胃を補う滋養薬で、暑を消し、中を和し、瀉を止める作用がある、故に暑熱煩渴し、吐瀉やまず、慢性下痢、食物中毒、二日酔いの嘔吐、婦人の帯下などに適応する

●扁豆の種皮を扁豆衣といい同様に用いる

●花は扁豆花といい瀉痢、膿血、帯下に用いる

【出典】●菹豆 微凉、転筋吐瀉、気を下し、中を和し、酒毒を能く化す。
(薬性歌)

【備考】●名医別録中品に菹豆と記載され、扁豆には白黒の二種あって白いものは温だが黒いものは小冷である。薬には白いものを用いるとある

【処方例】●参苓白朮散、香薷飲